



研究推進機構発足

~創立60周年を来年に控えた大学の改革~

学科TOPICS/シリーズ「SDGs」 着任の挨拶/学生の活躍 Office Information



研究を先頭に―研究推進機構発足―

~創立60周年を来年に控えた大学の改革~

研究推進機構は、研究力強化により県下工科系トップランナーを目指すために、前身の工学教育研究 推進機構の業務を見直し再構築したものです。従来の教育機能は工学教育支援センターとして機能 強化を図ります。研究推進機構の重点施策として、以下の4点を挙げ、取り組んでいます。

- 1.研究体制の見直し(ボトムアップ型からトップダウン型マネジメントへ)、
- 2.戦略的研究費配分(成果の上がるテーマと人にリソースを集中、評価を反映)、
- 3.研究支援の強化(外部資金獲得支援、研究補助の強化、研究広報の推進等)、
- 4.発展的施策(大学院との連携、オープン化等)



研究推進機構の 発足にあたって

学長 小宮 一三

神奈川工科大学は、科学技術の進展に貢献 する人材の育成と地域社会との連携強化を方 針として、2023年に建学60周年を迎えます。この 間、社会のニーズに応える多方面の先進的研究 を推進し、学界や産業界から高い評価をいただ いております。このたび、更なる社会貢献を目指し て研究推進体制を見直し、新たに研究推進機構 を発足させました。新機構には、研究推進、研究 支援、研究戦略、研究広報、研究管理の5部門を 配置し、時代を先導する研究テーマの設定と推 進、先端的基礎研究の発掘と育成、産学共同研 究や外部研究資金獲得の支援等に力をいれて いきます。要となる研究推進部門では、環境・エ ネルギー、情報、健康・生命科学の3分野につい

て、16の研究所・センターおよび先進技術研究所 をより活発化します。特に、国家的プロジェクトを 推進している一色正男特命教授 (スマートハウス 研究センター長)、井上秀雄特任教授(先進自動 車研究所長)、丸山充教授(先端工学研究セン ター)を特別研究室長として配し、本学の高度な 研究力を広くアピールします。また、これからの研 究推進力として、「教育と研究の連携」「産学官と 市民の連携プロジェクト|等、新研究分野にも積 極的に取り組んでいきます。

以上、本学は研究推進機構の発足を契機に、 更に研究力を強め、地域の知の拠点とし貢献し ていく所存です。

3つの特別研究室

■ スマートハウス研究センター センター長

特別研究室 一色 正男 特命教授

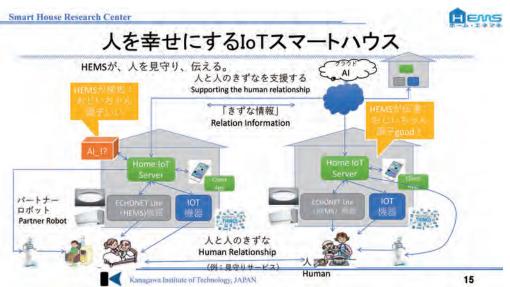
IoTスマートハウスでは、住宅内の電気を使う機器が通信ネットワークでつながることで、「家」が無駄 な電気を消し、省エネを実現します。この「家 | の中核的な、エネルギーを管理するシステムが「HEMS | で、住宅メーカーが違ってもスムーズに使えるよう統一された通信規格を「ECHONETLite」といいます。

私たちの研究センターでは、スマートハウスをもっと普及させていくために、HEMSやECHONETLite について、さまざまな会社と共同研究や支援活動をしています。HEMSを活用して日々の生活を助ける サービスや、新たな可能性を広げるビジネスのために、共同研究や技術支援に取り組んでいます。具体 例としては、センター内に全電力会社の電力メーターを設置し、企業などにECHONETLiteの相互接続

検証の環境を提供しています。

こうした環境の中で、社会課題を身近 に感じ、学生たちは自身の研究を深めた り、企業との共同研究に取り組んだり、 企業のIoT化を手伝ったりしています。

今後の研究テーマは、「人を幸せに するIoTスマートハウス」です。遠く離れ たおじいちゃんの「家」と、息子・娘家族 が暮らす「家」がネットワークでつながっ て、日々の暮らしの様子を伝えていく、IT で人と人の絆を支援する研究です。学 生たちにも「技術は人を幸せにするもの である という考え方をしっかりと伝えて いきたいです。



先進自動車研究所 所長

特別研究室 井上 秀雄 特任教授

先進自動車研究所では、内閣府(省庁横断型)SIP第2期自動運転事業の重点である「仮想空間で の自動走行評価環境整備手法の開発(DIVP)」の国家プロジェクトにリーダ機関として2018年末より取 組んでいます。産学連携で企業10社と2大学が協力し自動運転の安全性評価シミュレーションプラット フォーム開発を進め、この度完成し事業化の運びとなりました。

自動運転システムが複雑化する一方で、無数に存在する走行環境に対して高い安全性の確保が求 められます。しかし、現在の自動運転車の安全性の検証は、網羅的な実車評価に依存しており膨大な

コスト(人・物・金・時間)がかかります。DIVPでは、自然界で起 こる電磁波の物理現象を解析し、カメラ、レーダー、LiDAR等の 外界センサから見た環境~伝搬~センサの反射特性を定義で きる仮想空間モデルを開発し、バーチャル評価を可能にしまし た。世界初のシステムということもあり国際標準化をめざしドイツ との共同研究も日独国家合意のもとスタートしています。

今後は学生もこの様な最先端技術に触れれるように、昨年度 より企業で使われているソフトウェア「MATLAB/Simulink |を 基礎から学べる講座を開設しました。学部学科を問わず、学部 1年生から大学院生、社会人までが受講できる横断的な講座で す。このような実践講座の開催も企業連携を通じて学生たちを 育てていく大学の役割だと考えています。

URL: https://divp.net/

https://sip-cafe.media/info/6240/





先端工学研究センター

ネットワークコンピューティング研究室 丸山 充 教授

2012年に神奈川工科大学にきて、まず取り掛かったのはフレッツ光の100倍という100Gbpsの回線を引 くことでした。そこから10年、国の機関や研究を支持してくださる企業と一緒に、8K映像を圧縮せずに 送る試験配信に参加してきました。非圧縮8K映像の鮮明な画像は、医療分野では内視鏡や手術と同 時に進められる病理医学に活用され、医学書の間違いを目視で確認するといった驚きにつながりました。 2014年からはネットワーク技術の展示会「Interop Tokyo」、2013年からは産学官で実施している実証 実験にも参加しています。

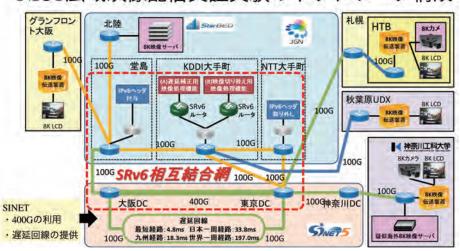


こうしたイベントや実証実験で、活躍しているのが研究室の学生たちです。特に「NICT高精細映像

伝送実験」では、3年後期に研究室に入っ た学生たちが、企業の方と一緒に準備をし て、ネットワーク機器のセッティングから当日 のオペレーションまでを担当します。いわゆ る"現場"で学ぶことで、学生たちの技術力 は大きく伸び、自信を持ってネットワーク業界 に就職する学生も多いです。

現在、取り組んでいるのは、国の次世代 通信B5G (Beyond 5G) の事業として採用 された「広帯域・低遅延リアルタイム配信処 理プラットフォームの研究開発 | です。B5G の速度は5Gの10倍で、リモートライブなどの 臨場感も大きく増しますが、さまざまな課題も あります。私たちの研究開発で課題をクリア し、実用化につなげたいと頑張っています。

NICT広域映像配信実証実験のネットワーク構成



キャンパスPhotos













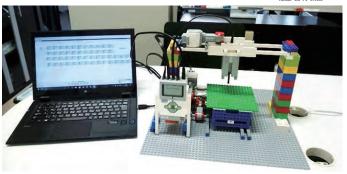
任教員をお迎えしました

私は1989年に本学工学部機械工学科を卒業しました。卒業後直ぐにそのまま本学 機械工学科所属の技術職員として就職しました。しかし、当初は研究者になるつもり は無く、小学校の先生になるために教育学を学びたくて社会人学生として他大学の文 学部教育学専修に学士入学し、職員と学生という二足のわらじを履いて勉強しました。 そのうちに学んだ教育学を大学の工学教育に役立てたいと思うようになり、引き続き 大学院で学び、工学と教育学の二つの領域にまたがった教育工学で学位を取得しまし た。現在はエンジンから玩具まで教育に活用する機械の開発を研究テーマとしていま

す。学位を取った後は工業・技術分野の教師教育担当の教員 として本学の教職教育センターに異動しましたが、今回久しぶ りに機械工学科に戻ってくることになりました。このように、私 はかなり変わった経歴を持つ人間ですが、学生の皆さんには、 工学の面白さについてはもちろんですが、こうした型にはまら ない考え方や生き方の面白さについても伝えられたらいいな と思っています。



佐藤 智明 教授



教育機械の例「おもちゃと機械工学の融合(LEGOによるNC加工装置)」

機械工学科准教授 萩野直人先生

機械システム工学科 平成5年3月 卒業/大学院修士課程 平成7年3月 修了

この度、4月に着任いたしました萩野直人と申します。専門は熱流体工学でガスター ビンの圧縮機などに発生する非定常流動の解明、抑制を行っています。私は修士を修 了後、一般企業に就職し研究業務を担当しました。その後、流体の研究を行いたいと 考え本学の博士後期課程に入学しガスタービンに関する研究を行いました。博士取 得後、本学の非常勤講師・研究員を勤め、工業高等専門学校の教員を経て本年4月よ り母校である神奈川工科大学の教員として教鞭を執っています。学生時代、特に4年 生で配属した研究室では研究で厳しい面も多くありましたが、教授と旅行に行くなど

楽しい日々が思い出となっています。現在も当時の研究室のメ ンバーと1年に4~5回は集まり親交を深めています。

機械の設計・研究では、「センス」が必要であり、公式を覚える だけではなくその背景ある「現象」を理解する必要があります。 本学ではそのような能力・知識を身に付けられる環境がありま す。皆さんもぜひ「現象」を理解することを目指してください。





核沸騰促進技術の応用に関する研究

TOPICS

電気電子情報工学科の電気回路系科目

電気電子情報工学科におけるカリキュラムの特徴の一つとして、電気回路系科目があります。 1年生の 前期で勉強する多くは、例えば英語などの一般教養科目となりますが、専門科目として「基礎電気回路I」 を学ぶカリキュラムとなっています。この科目は、電気電子情報工学において最も基本的で重要な「直流 回路解析」と「交流回路の基礎」について学びます。授業は週に2回、1回は講義であり電気電子情報工学 科の1年生全員が広い教室に集まり受講します。もう1回は演習であり、2つのクラスに分かれ、厳選され た演習問題を用いてそれを解く練習をします。各クラス1名の教員と1名のティーチングアシスタント(大 学院生)が担当し、学生一人一人に指導しやすくなるよう工夫しています。 講義において直流電気回路の 法則等を学び、演習にてその法則を用いた回路解析方法を習得するとともに理解度を深めます。基礎電 気回路で学ぶ法則は、100年以上前に導き出されたものが多くあり新しいとは言えませんが、今後も変 わることのない普遍の学問ともいえます。この科目を通して、一 -生使える技術を身につけます。

「基礎電気回路I」の修得後は、1年生後期に交流回路解析 の基本を「基礎電気回路II」で学びます。2年生になると、さら に発展的な回路解析方法を「回路解析I」と「回路解析II」で学 ぶことができます。そして、電子回路の基本となるダイオー ドやトランジスタの動作原理などを「基礎電子回路」で2年生 前期に学び、後期には「アナログ電子回路」や「ディジタル回 路」が用意されています。電子回路の応用であるオペアンブ やカウンタ回路などの解析・設計法を学習できます。

電気電子情報工学科における電気回路系科目では、現在 の電力システム、情報通信機器や電子デバイスなどの根幹 を担う電気電子システムの理解や設計に必要な知識やスキ ルを体系的に学べるように丁夫されています。

電気電子情報工学科の電気電子回路科目 「基礎電気回路I」

> 「基礎電気回路II」 「同路解析!」「基礎電子同路|

1年 前期 後期

後期

2年 前期 (文責:電気電子情報工学科教授 瑞慶覧 章朝)

「回路解析II」「アナログ電子回路」「デジタル回路」



演習中の授業風景



研究会に参加

2021年度も、電気電子情報工学科および電気電子工学専攻の 学生、院生が、多くの国内および国際学会に参加しました。今回は、 2022年3月29日に大学院生の伊藤圭亮さんが静電気学会関西支 部研究会に参加し「高電界型電気集塵装置におけるディーゼル排ガ ス粒子の集塵と各種パラメータの影響 | について発表を行い、その ときの感想を伺いましたので紹介します。

「私自身初めての学会参加で、大変緊張しましたが、研究の発展につ ながる意見をもらうなどとても良い経験ができました。発表準備の 段階では、説明の順序や言葉遣い、わかりやすいスライドの作成など に苦戦しました。しかし、先生や友人からアドバイスをもらい、練習と 改良を何度何度も重ね本番に臨みました。発表本番では準備の成 果を十分に発揮でき、無事に終えることができました。質疑応答で は、著名な先生方からコメントをいただき、そのときは心臓が破裂す るほど緊張しましたが、とても良い思い出にもなりました。あと1年、 頂いたコメントを今後の研究に活かしていきたいと思います」

(文責:電気電子情報工学科教授 瑞慶覧 章朝)



で学会発表に臨む伊藤さん

新しい仲間を迎えました

2022年になって、コロナ感染が若干落ち着き始めてきました。大学はまだまだ 完全に対面講義へと移行していませんが、随分と活気を取り戻しつつあります。昨 年度末は無事卒業式を学科別に挙行することができ、そして4月には新入生を迎え ることができました。一同教室に集まっての学科別の入学式となりましたが、やや 緊張の面持ちでの式典となりました。入学式後には、先輩たちが主催してクラス会 を開催しました。主に時間割の作成や大学構内の案内、そして友達作りのアイスブ レイクなど色々と工夫を凝らしての実施となりました。新しい大学生活の4年間を 無事に、そして楽しく過ごしてほしいと教員一同願っています。

(文責:応用化学科教授 髙村 岳樹)



卒業研究始まりました

新年度になると4年生は卒業研究が始まります。3年生の後期から研究室配属 となり、引き継ぎなど実験技術を徐々に修得しながら、4年生からは本格的な研究 が始まります。就職活動と上手に両立させながらの研究活動で、割と忙しい時期 になります。1年生は、そんな4年生での卒業研究を体験する講義「卒業研究体験 実習」があります。この実習では、「研究室ではどのようなことを研究するのか」と いった内容に主眼が置かれているのですが、今年度は学生自らがテーマを設定し て、設定した課題の解決にグループで取り組むことになります。持続可能なエネ ルギーに関する研究、水質浄化に関する研究、リサイクルに関する研究など、多彩 な研究内容で、興味のある実験に取り組んでいます。応用化学科では、卒業研究 を4年間継続して取り組む事ができるカリキュラムになっています。今後の発表会 を通じて、自らが学んだことをしっかりと見つめ直し、次の研究に生かせるといい ですね。 (文責:応用化学科教授 髙村 岳樹)



自動車システム開発]

開発プロジェクト車 両の走行会を開催

自動車システム開発工学科の3年次には「自動車開発プロジェクト」の授業 があり、学生は希望する研究室に一年間所属し、人が乗れて「走る・曲がる・止 まる」ができる移動体を設計・製作します。この製作過程を通し、コンセプト 設計、詳細設計、製作、性能評価等、自動車を開発する一連の流れを体験しま す。開発プロジェクトの締めくくりとして、4月26日 [2021年度開発プロジェ クト車両」の走行会を開催しました。今回は「知能モビリティ研究室」「モータ スポーツ工学研究室」「電動システム研究室」「ソーラービークル工学研究室」 「車両運動・制御研究室」の順で、それぞれの研究室で工夫をこらした計5台 の車両が紹介されました。 (文責:自動車システム開発工学科教授 脇田 敏裕)















TOPICS ロボット・メカトロニクス学科

2022国際ロボッ ト展に出展

本学教職員と協力企業の支援のもと2022国際ロボット 展に出展し、ロボット・メカトロニクス学科の教員学生が中 心となって、来場者にヘルスケアロボットを実演、説明しまし た。本会は2022年3月9日より12日まで東京ビックサイト で開催され、入場総数は62,388名でした。 出展を通して感 じる展示会の面白さとは、自らの創作物を世に問うことがで きるということです。構想から製作、実演まで行い、創作物と ともに背景にある思想や哲学も来場者に知ってもらえます。 来場者から共感が得られたときには、創作の苦労も忘れてし まいます。このような来場者との出会いが新しいテーマを

生み、次の研究のパー トナーを見つける機 会になります。つまり、 展示会はアイデアが 生まれ、新しい仲間が 現れる場といえます。 本展示は多くの方に 支えられて準備を行 い、無事に出展できま した。支援者の皆さま には本紙面をお借りし まして、深くお礼を申 し上げます。







プロジェクト研究実践報告会

課外科目である「プロジェクト研究実践」の報告会を4月7日の フレッシャーズガイダンスにて行いました。以下の全7件の発表 がありました。

- ・食事支援システムに関する研究(4年生3名)
- ・霊長類ロボットによる筋骨格構造と歩行形態の設計(4年生1名、 3年牛2名)
- ・ロボットを用いたコミュニケーションとヘルスチェック巡回(4年 生1名、3年生1名、2年生1名)
- ・浮上移動装置に関する研究(2年生4名)
- ・肘部パワーアシスト装置の製作(2年生1名)
- ・タンク型ロボットの製作(2年生3名)
- ・段差踏破機構の製作(2年生3名)

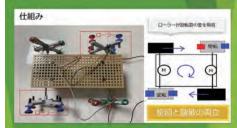
それぞれにオリジナルの工夫がなされており、大変興味深く、面 白い発表でした。新入生も興味深く聞き入っていました。

(文青:ロボット・メカトロニクス学科准教授 吉留 忠史)









TOPICS

-ムエレクトロニクス開発学科

ホームエレクトロニク ス開発学科・入学式

さんが4年間でどのように成長していくのかとても楽しみです。コロナ禍の ため、マスク着用での写真になりました。マスクを外して会話が出来る日が 来ることを心待ちにしています。

(文責:ホームエレクトロニクス開発学科教授 三柄 貴行)



1年生集合写真

フレッシュマンズガイダンスおよび 入学前講座

-年生を対象にしたフレッシュマンズガイダンス・入学前講座が4月2日、4月4日~ 8日にかけて実施されました。新入生同士の交流と大学生活に必要な基礎知識・学修の 姿勢を整える内容で、学生間の友人作りに役立ったと思います。今年度はPIAサポートの 学生(本学科教員養成コース・3年生含む)の支援を受けた授業プログラムがありました。 PIAサポートに授業を依頼した三栖教授は「年齢の近い先輩と交流できたことは本当に良 い経験になったと思います。また、PIAサポーターの考えたレクリエーションは工学的な学 びの要素が含まれていました。改めてPIAサポートの皆様、関係職員の皆様に感謝申し上 げます」と話されていました。 (文責:ホームエレクトロニクス開発学科教授 三栖 貴行)



PIAサポーターによるレクリエーション。とても楽しそうに取り組んでいました。

フレッシャーズ・ガイダンスを実施

4月6日に新入生を迎え、学科教職員の紹介 や応用バイオ科学科について学ぶフレッシャー ズガイダンスを行いました。午前に教員の紹介 や学科学牛で作るiGEM (牛物版「ロボコン」の チーム) や利き酒など自主活動グループの活動 報告と入部案内、リメディアル (補習) 教育を行 う基礎教育支援センターの紹介が行われたの ちクラス毎に自己紹介をしました。 昼食後は応 用バイオ科学科の施設を知ってもらうための 恒例行事「ウォークラリー」を開催し、数人ずつ のグループに分かれ、原瀬君をはじめとする先 輩たち総勢30人ほどで新入生を案内しました。 ウォークラリー後はKAIT広場で先輩方や教員 とともにビンゴゲームを行い親睦を深めるとと もに、学びに役立つ様々なグッズが贈呈されま した。午後は今年度から必須になった個人PC を大学で使うための設定や、オンラインを利用 した履修登録を行いました。PCに不慣れな学 生も少なくないため先輩方がアシスタントとし て優しくフォローし、全員がPCの設定と履修登 録を完了させました。未だ大学への入構に少な くない制限はありますが、先輩たちと交流する とともに、新しくできた友人たちと互いに協力し ながら実りある大学生活を過ごすことを願って います。 (文責:応用バイオ科学科准教授 井上 英樹)



TOPICS 情報工学科

HNOLOGY INFORMATION AND COMPUTER SCIENCES

2022年度ウェルカムイベント及びフレッシャーズガイダンスを開催

昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍で注意を払いながら、ウェルカムイベント及び フレッシャーズガイダンスを無事開催しました。

先ず、学科オリエンテーションの午後に、ピアサポート (KAITPia) の先輩学生による ウェルカムイベントを実施しました。KAIT WeVと名付けられたこの企画は、教職員で はなく先輩学生が新入生を歓迎するというコンセプトで、情報工学科では数年前から 開催しています。4年生のサポートのもと、今年度は2年生が主体となって企画・準備・ 運営をこなしました。学生目線で準備されたコンテンツですので、新入生も大いに盛り 上がっておりました。来年は、後輩を迎え入れる側としての活躍を期待しています。

上記イベントに引き続きフレッシャーズガイダンスも実施しましたが、今年度は現職 の教員らの記憶がある中で初めて!?新入生が一人も欠けることなく全員参加となり、 準備したかいがあったように思います。全員マスクした中でややひっそりとした進行に ならざるを得ない状況でしたが、それでも対面で実施することにより、学生間での友人 作りのきっかけとなったり、学生と教員間でお互い顔を覚える重要な機会となり、有意 義な大学生活のスタートが切れたのではないかと思います。初日は学科長の講話や 教員紹介などの後、クラス単位で懇談会、そしてさらに少人数の班単位で集まって履修 のサポートを実施しました。情報工学科では学生10名余りに対して1名の教員がクラ

スアドバイザとして手厚く面倒を見る体制をとっています。 さらに、先輩学生を1名ず つサポートにつけ、学生目線でのアドバイスなどが行えるような仕組みを取り入れてい ます。2円目は午前に履修相談会を催し、午後からは共同購入PCの受け取り及び講習 会というスケジュールでした。初めての履修登録ということで、苦戦している学生が多 かったですが(指導する側の教員も毎年苦戦していますが…)、この儀式?を通過するこ

とで、高校時代とは異なり 自主的に対応していかない といけないということを学 ぶよい機会になっているの ではないかと毎年感じてい

(文責:情報工学科准教授 須藤









シャーズガイダンスの履修相談会

TOPICS 情報ネットワーク・コミュニケーション学科

「誰に対しても使いやすくやさしい」 情報ネットワーク社会を目指して 岩田研究室

現代社会のインターネットは、電気や水道などと同様に生活に欠かせないインフラ(社会資本)となって います。しかし、インターネットを利用するユーザーの知識や経験は千差万別です。情報収集やサービス を受けるためには、スマートフォンやパソコンなどの操作方法に加えて、ソフトウェアの使い方も覚える必 要があります。更に、ユーザーには障がいを持っている方や、高齢者・小さい子供など、さまざまな人達が います。

私の研究室では、ソフトウェアの開発やインターネットのWebページのデザインを行うときに、どのよ うな人にとっても使いやすくなる支援や、ユーザーが操作を学習しやすくなる支援の研究を行っていま す。また、twitterなどのSNS(Social Networking Service)やYouTubeなどの動画サービスの普及に より、多くの人達に自分の考えを発信することもできるようになりました。使い方次第で、一人の人間がテ レビや新聞などのマスメディアに相当するほどの影響を社会全体に与えることも可能です。しかし、誰も がスマートフォンなどで気軽に情報発信ができるようになった反面、安易に多くの人達からの注目を集め たいがためにふざけたメッセージや写真・動画などを公開して大きな騒動になってしまう炎上や、オンラ イン詐欺やデマに加担するといったトラブルに巻き込まれることが社会問題となっています。

そのため、単にソフトウェアやサービスを使いやすくするだけでなく、現代のネットワーク社会に合わせ た、適切な情報収集・情報発信の方法について、多くの人たちが情報倫理(モラル)を学ぶための支援や、 トラブルの原因になりかねないメッセージや写真などを公開する前に防ぐための技術について研究を 行っています。

コンピュータやネットワークの技術は大幅に進歩しましたが、まだまだ人の側が歩み寄る必要がありま す。私の研究室では、その距離を少しでも縮めて、誰にとっても使いやすくやさしい情報ネットワーク社会 となることを目指しています。 (文責:情報ネットワーク・コミュニケーション学科准教授 岩田一)

使い方が分からない、 操作しにくい...



TOPICS 情報メディア学科

タモリ倶楽部に出演

大学院情報工学専攻1年の春澤恒輝さん他、情報メディア学科上田研究室の 学生と上田准教授が2/4(金)の「タモリ倶楽部」に出演しました。

内容は「人類5000年の難問に挑戦 大学対抗!ストローのズズズ音 解消大作 戦」で、当該研究室が情報学の中でも音響工学を主とした研究を行っていること から声がかかり、参加することになりました。大学院生3名と大学院進学予定の3 名、特別専攻の学部2年生+教員でストローのズズズ音を解消すべく、制作会社 とのオンライン会議を行いました。本学の広報の大切なチャンスを逃してはなら ないという一心で卒論や学会の締切が迫る12月にメンバーそれぞれが音響学を 前提として、面白いアイディアを提案しました。その結果、アクティブノイズコント ロールという音響技術の提案が採用され、実行部隊として大学院特待生の春澤 氏が実際にアクティブノイズコントロールのシステムを試行錯誤しました。本番 の収録まで1週間もない中で、半無響室(反射音がほとんどないとても静かな実 験室)でうたた寝をしてしまうくらい頑張っていました。

結果は…叶わず5大学のうち、最下位となってしまいました。

しかしながら、リアルタイムでアクティブノイズコントロールを実装するのはとて も困難であり、リアルタイムではなく録音されたストローのズズズ音をアクティブ ノイズコントロールで消す(消える)というVTRを事前に撮っておいていただき、 同時にそのVTRもオンエアされました。他大学は流体力学が主な専門とする人 材の中で音響学の一つの技術が紹介され好評をいただきました。とは言え本番 は全く消えなかったのですが…

春澤氏はもちろん、4年生も他の院生もマスキング(ズズズ音より大きな音で ごまかす)など、音響学的視点を駆使したアイディアを出してくれました。実行部 隊ではなかった大学院生の応援もとても暖かいものでした。これからも本学及 び、音響学・情報学に非力ながらメディア学科として貢献していければこの上な き幸せです。 (文責:情報メディア学科准教授 上田 麻理)



ど流会の開催 1~4学年3

看護学科では、4月に第8期生となる1年生79名を迎え、4月6日、7日にフレッシャ ズガイダンスを開催しました。フレッシャーズガイダンスは、新入生の学生生活の第一 歩として重要な催しです。教員の紹介から始まり、上級生が大学内を案内するキャンパ スツアー、2~3年代表学生からの学生生活ノウハウレクチャー、レクリエーション等、 新入生の充実した大学生活を応援する内容で構成されています。今年は、初めての試 みとして、1~4学年が混合で15名程度に分かれ、交流会:ワークショップを開催しまし た。最初は皆、緊張した顔つきでしたが、次第に緊張は解けて和やかな雰囲気となり、 新入生は不安や心配なことを質問し、上級生は自分の体験を交えながら答えていまし

た。参加した新入生からは、「先輩の生の声が聞けて具体的にイメージがつきました。 今回顔見知りになれたので、これからも色々聞いていきたいです」との声や、2年生から は「新入生はもちろん、上の学年(3年生や4年生)の先輩と交流する機会がなかったの で、今後の実習や科目の具体的なことも聞けて貴重な時間でした。これからも学年を 超えた交流をしていきたいです。」との声があがっていました。

今年度から対面授業が再開され、実際に会ってコミュニケーションする機会が増える と思います。学年の垣根を越えて、共に協力し高め合い成長する学生の姿、ご期待くだ さい。 (文青: 看護学科講師 青木 直希子)





ワークショップの様子

CE DEPARTMENT OF NUTRITION AND LIFE SCIENCE

管理栄養学科9期生 卒業式

9期生の卒業式は、新型コロナウ イルス感染対策のため、昨年度と同 様に学科ごとに挙行されました。卒 業生と教員のみでのささやかな式 ではありましたが、学位記を授与さ れた卒業生たちの晴れやかな笑顔 が印象的でした。卒業生の皆様の ご多幸と益々のご活躍をお祈りい たします。



(文責:管理栄養学科准教授 大澤 絢子)

2022年度 入学式、フレッシャーズガイダンス

4月2日(1)2022年度入学式が行われ、管理栄養学科は47名の新入生を迎えました。4 月6日、7日に行われたフレッシャーズガイダンス (FG)では新入生の自己紹介が行われ、 出身地、趣味や特技、現在夢中になっていること、アピールポイントなどが話され、教職員 は目を細めて聞いていました。FGでは、上級生が主体となって学内見学や懇談会も行わ れ、履修登録のこと等について熱心な質問が飛び交い、充実した2日間となりました。

(文青: 管理栄養学科教授 菅野 丈夫)



臨床栄養臨地実習報告会

4月16日(出)にメディアホールにて2021年度臨床栄養臨地実習報告会が開催さ れました。今回は実習を終えた4年生だけでなく、これから病院での実習に臨む3年 生も同会場にて対面での参加が叶いました。27班より研究課題別に報告され、情 報共有とともに学年を超えて活発な質疑応答が行われ、有意義な報告会となりまし た。 (文責:管理栄養学科教授 横山 知永子)



「+α資格取得プロジェクト」発表会の開催

「令和3年度 +α資格取得プロジェクト」の発表会が令和4年4月5日(火にオン ライン方式で行われました。プロジェクトに参加した新4年生が、前年度に実施し た内容について発表しました。コロナ禍という事で、昨年度に引き続き「スポー ツ栄養」と「食品産業」の2分野の実施となりました。参加した学生の発表からは、 それぞれの現場で得られた貴重な経験が伝わってきました。発表会には、プロ ジェクトでお世話になった先生にお越しいただき、オンラインを通じて質疑応答 時の補足説明をしていただく場面も見られ、学外の方のお話を伺うことのでき る良い機会になりました。 (文責:管理栄養学科准教授 三宅 理江子)

[学科フレッシャーズ・ガイダンスを開催

ガイダンスが開催されました。昨年は新型コロナウィルス感染症の感染拡大防 止のため、1日のみの開催でしたが、今年はコロナ禍以前と同じ2日間としまし た。1日目は、学科教職員の紹介から始まりました。次に臨床工学技士の業務内 容と学科における学びに関するガイダンスがあり、4年間の学習のイメージをつ かみました。午後は、クラスミーティングとキャンパスツアーを行いました。クラ スミーティングでは1人ずつ自己紹介を行いました。入学式からの数日間、あま り会話がありませんでしたが、おしゃべりをする輪ができた様子でした。その後、 教務関連説明と履修相談で、履修登録する科目を固めていきました。2日目の午 前はパソコン講習を行いました。午後は学生相談室のお話しの後、よろず相談と して、新入生のいろいろな質問に答えました。ガイダンス終了時には、明るい和 やかな雰囲気となり、有意義なガイダンスとなりました。







臨床工学科の新入生の皆さん

日本機械学会 情報·知能·精密機器部門 部門賞 優秀講演論文賞を受賞

昨年度の日本機械学会IIP2021講演会にて行った研究発表「透析用穿刺針に搭載する慣性ヤンサによる穿刺手技の計測」に対し、ご の栄誉を賜りました。透析治療に不可欠な穿刺の技能の特徴化に焦点をあて、穿刺角度の3次元計測のために、実際の穿刺針にその まま搭載する小型慣性センサによる方法を提案するものでした。慣性センサは重力成分を含む加速度情報や地磁気の取得による姿 勢計算に利用しましたが、両手指を駆使して狭領域で短時間に達成される穿刺手技の計測に利点のある方法でした。受賞の主旨に、 研究が与えうる社会的インパクトのご指摘があります。これは当研究が医療の場をよく知る同僚の先生方との議論に下支えされて いたことに他なりません。また、元々は学生の着想によるものであり、年々の卒業研究で取り組まれた学生諸氏が思い起こされます。 日々医療の実践と技能の探求に勤しむ彼らのフィードバックが将来得られることを楽しみにしています。





シリーズSDGs 💨 学生組織 [KAIT SDGs HUB] の活動

SDGsの17のゴールは世界的な目標であるために、私たちにとって身近に感じることが 難しいかもしれません。しかし大地震などの災害で電気や水道といったライフラインが切 れた場合には、SDGsで言われている「食料」、「安全な水」、「エネルギー」などの確保が私た ちにとっても切実な問題になります。SDGsの目標11は「住み続けられるまちづくりを」で あり、KAIT SDGs HUBでは防災を一つのキーワードとして活動しています。

◎防災用備蓄食料の試食会

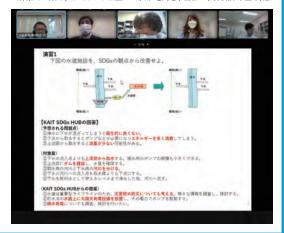
神奈川工科大学は災害時に避難所となる ことが想定されており、12,000食分の食料 を備蓄しています。KAIT SDGs HUBのメ ンバーで試食会を行い、実際に調理して食 べてみたところ、「思っていたよりも美味し い」、「加熱できるとさらに良い」、「衛生管理 はどうすればよいのか?」、「ゴミが大量に出 る」といった意見が出ました。今後はこれら の意見をもとに議論を行ない、災害時にも 慌てず、より良い避難所運営ができるように 活動していきます。





◎神奈川県内広域水道企業団との意見交換会

神奈川県内広域水道企業団は、県内の河川、浄水場などを管理 して各自治体の水道局に安全な水を提供する組織ですが、オンラ インで2回、意見交換会を開催しました。1回目は企業団の概要 の説明が主でした。企業団の活動はSDGsの目標6には当然関連 していますが、浄水場から県内各所に送水するポンプが大きな電 力を消費しているので省エネの活動もしていると説明を受けまし た。2回目の意見交換会では、重要なライフラインである水道の 防災対策などを議論しました。日頃は何気なく水道を使っていま すが、安全な水を安定して供給する活動の一端を知ることができ ました。今後は、取水施設や浄水場などの見学を行いたいと考え



創造工学部 ホームエレクトロニクス開発学科 教授 広井 賀子

この度、創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科に着任しました広井賀子(ひろいのりこ)と申します。システムエネルギー学研究室を主催します。これまでの経験で培ってきた幅広い分野の知識を活かし、資源やエネルギーの新しい循環を促す技術を開発し、SDGsをはじめとする社会問題の解決に貢献することを目指します。さまざまな分野、階層に広がりを持った課題に取り組む過程で、他学部・学科の先生方とも発展的なつながりを構築していかれるよう願っております。学生達の将来と地域社会の発展に尽力し、世界へつながる扉を築いていきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



【専門】SDGs、物理化学、物理生物学、統計解析、システム生物学、量子生命科学 【担当授業科目】ものづくりプロジェクトII、企業連携プロジェクトI、情報技術の基礎、身の回りの数学、キャリア設計

健康医療科学部 臨床工学科教授 深澤 伸慈

この度、健康医療学部臨床工学科に着任しました深澤伸慈と申します。臨床工学では人工呼吸管理や吸入療法、酸素療法など呼吸関係、特に呼吸不全を専門としています。研究ではなかなか進みませんが、呼気二酸化炭素曲線や呼吸中枢ドライブの検証などを行っています。一昨年前よりCOVID-19では重症例に人工呼吸器やECMOによる治療が行われ臨床工学技士がクローズアップされてきました。臨床や大学教育の経験を生かし、学生と共により充実した大学生活と社会・医療に貢献できる人材育成を行っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



【担当科目】生体代行装置学、医用機器安全管理学、その他



健康医療科学部 管理栄養学科教授 鮎澤 衛

この度、昨年度まで岡田知雄教授が指導されておりました「成育栄養学研究室」の後継として、本年4月1日から着任いたしました。これまでは、日本大学医学部小児科で診療と研究、医学教育に多忙な毎日を過ごしておりましたが、近年の医療においては、常に多くの職種の方達と連携してのチーム医療が必要とされています。本学において、医学生以外の職種の方達に最先端の医学を広く理解していただけるような授業と研究を行い、将来、日本の医療現場に貢献できる若い力を育成したいと考えております。よろしくお願いいたします。



【専門】 小児医学・発育医学・循環器学 【担当科目】 公衆衛生学、健康管理論、病理病態学 Iおよび II

健康医療科学部 看護学科 教授 鈴木 久美子(基礎看護学領域)

本年4月より看護学科に着任しました鈴木久美子と申します。看護学の基盤となる基礎看護学領域を担当しています。これまで、病院での助産師と看護管理者としての経験、文部科学省での看護専門職としての経験、助産師学校や看護大学での助産の単程看護学領域の教育に携わってきました。今までの経験を活かし、いつの時代においても社会の変化と対象のニーズに対応できるように、的確な判断能力と適切な実践能力を身につけた、心優しい看護師の育成に貢献していきたいと思います。



【専門】基礎看護学

【担当授業科目】基礎看護学概論、看護技術総論、生活援助技術I・II、ヘルスアセスメント、基礎看護技術II、(診療の補助技術)、基礎看護技術IV(看護過程)、健康教育、早期体験実習、基礎看護学実習I、看護統合実習、看護研究II、臨床工学科看護学概論

工学部 機械工学科 准教授 萩野 直人

この度、4月に着任いたしました萩野直人と申します。専門は流体工学、熱流体工学で、ガスタービンの圧縮機などの流体機械内に発生する時間的に大きく変化する流れである「非定常流動変動」の解明、抑制を行っています。この分野は流体工学、熱工学や制御工学など複合的な分野にまたがる問題であり様々な知識が必要となります。これら扱ってきた経験を活かし実際の複雑な現象の解明と対処法を提案できるような教育・研究を目指したいと思いますのでよろしくお願いいたします。



【専門】流体工学、熱工学 【担当授業科目】流れ学I、機械製図基礎、機械応用実験

健康医療科学部 臨床工学科 准教授 酒井 徳昭

この度、臨床工学科に着任を致しました酒井徳昭と申します。大学教員の就任前は、臨床工学技士として20年ほど関西の病院で勤務していました。病院では救急医療を中心に、人工心肺や心臓力テーテル治療、不整脈治療、ECMOなど幅広い業務に携わってきました。医療ニーズの増大に伴い、臨床工学技士に求められる役割や知識等は変化してきています。これまで培ってきた技術や知識、最新の知見を教育・研究に取り入れ、現代の医療に貢献できる臨床工学技士の育成を目指します。よろしくお願いいたします。



【専門】人間医工学

【担当授業科目】生体機能代行装置学I・II、医用治療機器学I、チーム医療論、基礎医学実習、生体機能代行装置学実習I・II、医用治療機器学実習

健康医療科学部 看護学科 講師 久松 桂子(成人看護学領域)

4月から看護学科に着任しました久松桂子と申します。成人看護学領域を担当いたします。成人期は変化に富み、社会的役割や期待を担うライフステージです。患者様はより早い回復をのぞみ治療と向き合い、看護にも高い期待を持ちます。確かな知識と技術に加え対象を生活者として捉える視点も必要となります。そのため自ら考え学び続ける人材育成を目指しております。社会情勢の変化とともに医療は日々進歩しています。私も自身の課題と向き合い研究成果や新たな知見をもち、教育に還元できるよう努めていく所存でございます。どうぞよろしくお願いします。



【専門】成人看護学

【担当授業科目】担当授業科目:成人看護活動論I、実践総合演習(OSCE)、成人看護学実習I、I、看護研究II

健康医療科学部 看護学科 講師 泉山 由美子(地域·在宅看護学領域)

本年6月より看護学科に着任いたしました泉山由美子と申します。地域・在宅看護学領域を担当しております。これまでは、病院と訪問看護ステーションの看護管理者として地域で暮らす方々の安全な在宅療養に関する課題への取り組みを行ってきました。地域・在宅看護は、"住み慣れた地域での生活"を継続するために何が必要である対象者とともに考えることが重要です。療養者が地域で生きることを支える看護師の育成をめざして、さらなる研究と看護師の育成に貢献してゆきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



【専門】在宅看護学

【担当授業科目】地域看護論、在宅看護活動論制·LLLLL 在宅看護学実習、実践総合演習(OSCE)

健康医療科学部 看護学科

助手 高柳 朋恵(成人看護学領域)

本年4月より看護学科に着任いたしました髙栁朋恵と申 します。大学病院の看護師として十数年働き、新人指導 や学生指導をきっかけに看護教育への興味が増し看護 基礎教育に数年間携わってまいりました。これらの経験 を活かし、看護学生が大きく成長する臨地実習で、学内 で「知る・わかる」段階にあった学生の知識・技術・態度 を、臨床で「使う・実践できる」段階に到達できるような教 育支援を行っていきたいと思います。看護について学生 と共に語り、考え、学びながら一緒に成長していきたいと 思います。どうぞよろしくお願いいたします。



健康医療科学部 看護学科

助手 田岡 優美子(精神看護学領域)

本年4月より看護学科・精神看護学 助手に着任いたしま した田岡優美子と申します。これまで看護師として精神 科病棟に、保健師として企業に勤務し、メンタルヘルス支 援に関わって参りました。2020年からのCOVID-19の 影響で日常生活が大きく変わり、様々な制限の中で生活 しなくてはならない状況となり、こころの健康を崩す方 が増えている状況です。精神看護学を通して、学生と一 緒にこころの健康について学びを深め、対象とする人だ けでなく学生自身が自分のこころの健康も大切にできる よう、関わって参りたいと考えております。どうそ宜しく お願いいたします。



名誉教授記授与式を挙行

6月9日、名誉教授記授与式が執り行われました。

小宮一三学長より、以下の5名の方々に名誉教授の称号が授与さ れ、永年に亘り本学の教育・研究の分野において、多大な貢献をれた ことに対し感謝の言葉が贈られました。

<名誉教授記 授与者>

高石 吉登 名誉教授(元工学部機械工学科教授)

高橋 一郎 名誉教授(元工学部機械工学科教授)

米田 二良 名誉教授(元基礎・教養教育センター教授)

弘 名誉教授(元創造工学部自動車システム開発工学科教授) 平山

名誉教授(元応用バイオ科学部応用バイオ科学科教授) 俊明



電気電子工学専攻の院生が電気学会で優 秀発表賞を受賞

2月16日にオンラインで開催された第11回電気学会 東京支部 神 奈川支所研究会において、口頭発表を行った大学院電気電子工学専 攻の遠藤琢磨さんと田中萩乃さんが、それぞれ優秀発表賞を受賞しま した。

●受賞者:遠藤 琢麿

論文題目: 「燃料電池発電システムのための新しい高効率制御法の開発」

●受賞者:田中 萩乃

論文題目: 「カーボンファイバを用いたクラシックギターの検討」

受賞した遠藤さんは「賞を取ることができて良かったです。力を入 れていた研究が評価され、嬉しいと同時に身の引き締まる思いです。 今回の受賞を励みに、邁進していければと思います」と感想を述べま した。田中さんは「数々の大学が出場する電気学会で優秀発表賞を獲

得することができ、とても 嬉しく思います。熱心に指 導して下さった板子一隆教 授をはじめとする研究に携 わった全ての方々に深く感 謝いたします」と感想を述 べました。



受賞した 左)遠藤琢磨さん

情報メディア学科の学生が、ポスターコン ぺで1位を獲得

情報メディア学科の大根直樹さんが作成したポスターが、第19回 ゲーム学会 ゲーム作品コンペ告知用ポスター公募で1位に選ばれ、3 月5日にオンラインで表彰されました。これにより大根さんは、第20回 ゲーム学会 全国大会用告知ポスターの制作も任されました。

大根さんは「今まで採用されてきたポスターとは違うものを作りた いと思い、アイデアだしと表現に苦労しましたが、なんとか1か月で完 成しました。1位になったことはとても嬉しかったです。1位になったこ とで、全国大会用告知ポスターの制作もさせていただけたので、貴重 な経験になりました。これからも様々なことに挑戦して、制作を通して 自分の力を磨いていきたいです」と感想と今後の抱負を語りました。







大根さん制作のコンペ告知用ポス 大根さん制作の全国大会用告知ポ

受賞した大根直樹さん

情報工学専攻の院生が国際会議NCSP'22 でStudent Paper Awardを受賞

2022年2月28日から3月1日にかけて開催された国際会議 NCSP'22において、オンラインで研究発表を行った大学院情報工学 専攻の若尾 吏さんがStudent Paper Awardを受賞しました。

●論文タイトル

[Application of synchronized backscatter sensors to sign language motion classification]

発表では、本学が総務省の委託を受け、慶応大学等と共同で進めてい る研究で、電波給電によってセンサ情報を取得する無線通信システム (本学代表研究者:川喜田佑介准教授)を手話動作のセンシングと識

別に適用し、その有効性を実証した結果を報 告しました。若尾さんは「今まで研究室で取り 組んできた成果とノウハウがあってこその受 賞です。私ひとりの力ではなく、関係する先 生方のご指導ご鞭撻、4年生の協力のお陰と 思っております。今後も、皆様のお力添えを いただきながら、自分も後輩に有用な何かを 残していけるように進めていきたいと思いま す」と受賞の喜びを述べました。



上 本 古 進

ホームエレクトロニクス開発学科の学生 が学会で学生奨励賞を受賞

2022年3月3日から5日にかけて、愛媛大学城北キャンパスでハイ ブリッド開催された情報処理学会 第84回全国大会~変わる社会と情 報処理~において、ホームエレクトロニクス開発学科の4年生(当時) の関 裕二さん、3年生(当時)の望月海久斗さんがそれぞれ学生奨励 賞を受賞しました。関さんは大学院に進学、望月さんは卒業研究と、継 続して研究を行っています。

●講演者:関 裕二

●共同研究者:川崎直紀、奥村万規子(神奈川工科大) 講演タイトル: 「遠隔操作可能な屋外用ラインディスプレイの製作」

●講演者:望月海久斗

●共同研究者: 篠山涼奈、古澤瑠果、宇田悠佑(神奈川工科大)、渡部 智樹(NTT)、一色正男(神奈川工科大)

講演タイトル: [IoT機器を用いた睡眠改善システムの研究]





受賞した望月海久斗さん

『中部謙次郎賞』『大岐良一賞』『加賀信男賞』 『石上純男賞』『木川統一郎賞』表彰

本学大学院博士前期課程に在籍する大学院生を対象とする奨学金 制度である『中部謙次郎賞』、『大岐良一賞』、『加賀信男賞』、『石上純 男賞』、『木川統一郎賞』の授与式が6月15日に行われました。

授与式では小宮学長から、成績および人物ともに優秀な学生に奨 学金が授与されました。

<2021年度受賞者>

「中部謙次郎賞」受賞者 武藤嶺奈さん(機械工学専攻)

「大岐良一賞」 受賞者 若尾 吏さん(情報工学専攻)

「加賀信男賞」 受賞者 秋山佳穂さん(応用化学・バイオサイエンス専攻) 「石上純男賞」 受賞者 高野大河さん(ロボット・メカトロニクスシステム専攻) 「木川統一郎賞」受賞者 山之内 晶さん(機械システム工学専攻)



「Open Hack U 2021」で情報工学科の 『KAIT Beginners チーム』が優秀賞を受賞

ヤフー主催の「Open Hack U 2021 Online Vol.3」がオンライ ンで開催され、情報工学科の武藤優輝さんと長野大治郎さんによる 『KAIT Beginners チーム』制作の作品が優秀賞を受賞しました。

[Open Hack U]は、ヤフーのエンジニア・クリエイター・プラン ナー社員のサポートのもと、限られた期間の中で学生がプロダクトを 自ら企画・開発・発表するイベントで、春開催のVol.3では、25チー ム、100名が参加しました。

●受賞作品: 「かるたで暗記!英単語」

2人から4人まで遊べるWindowsアプリケーションのかるたゲーム。 日本語のワードが出題されるから正解までプレイヤーを十字キーで 運んでみよう。

●受賞コメント: 武藤さん

「豊富な機能などのクオリティアよりもアイディアの新規性を重視し、 狙ってみたら運よく当たったと考えています。今後も結果に関わらず たくさん挑戦をしていきたいと考える良い機会となりました。また、経 験のない状態から開発を進めることと、チーム開発の役割分担がすご く難しいということを学びましたし

長野さん

「テーマを決めるのに時間がかかってしまったので後半はすごく大変 でした。もっと早くテーマを決めることができていれば細部にもこだ わることができたと思います。今回のHackUの審査基準が、新規性、 技術性、発展性、再現性の4つでした。 英単語かるたのテーマを決め るときに、韓国語や中国語などのほかの言語でも同じプログラムでも 使えると思い発展性にあたると考えました。賞をもらった時、審査委

員の説明で 発展性が あると評価 してくれた ので、テー マをに時間 をかけてよ かったと思 いました



硬式野球部の選手がベストプレーヤー賞と ベストナイン賞を受賞

令和4年度神奈川大学野球春季1部リーグ戦において、本学硬式野 球部の選手が以下の賞を受賞しました。

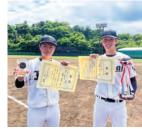
チーム成績は、6勝5負(勝率0.545)の3位でした。

●ベストプレーヤー賞

投手 工藤佑太さん(工学部機械工 学科グローバルエンジニアコース 4 年)

●ベストナイン賞

二塁手 矢澤朋也さん(情報学部情 報ネットワーク・コミュニケーション学 科 4年)



受賞した矢澤 朋也さん(左)と工藤 佑太さん (右)

Office Information

経営管理本部

総務課

評議員就退任(含重任)について

評議員退任:3名(2022年3月31日付け)

佐藤 尚、栗原 誠、平野 多嘉弘

評議員就任:3名

(任期:2022年4月1日~2025年3月31日3年間)

納富 一宏 (選任区分:法人職員) 松田 康広 (選任区分:法人職員) 長谷部正孝 (選任区分:法人職員)

評議員重任:10名

(任期:2022年4月1日~2025年3月31日3年間)

中山 裕之 (選任区分:卒業生) 秋野 裕 (選任区分:卒業生)

中部謙一郎 (選任区分:学識経験者)

尾崎 亮典 (選任区分:学識経験者)

中込 寛 (選任区分:学識経験者) 青山 侑 (選任区分:学識経験者)

栗林 直幸 (選任区分:学識経験者)

前島 一夫 (選任区分:学識経験者) 松下 亮 (選任区分:学識経験者)

和田 孝夫 (選任区分:学識経験者)

理事長重任について

理事長重任

(任期:2022年9月1日~2026年8月31日 4年間)

中部謙一郎

学生支援本部

教務課

今後の主な予定

<前期授業終了日>

8月1日(月)

<前期授業補講日>

8月2日(火)~4日(木)

<前期到達度試験日>

8月5日金・6日(土・8日(月)

<夏期休業期間>

8月9日(火)~ 9月15日(木)

※夏期休業期間中に集中講義を実施する科目もあ ります。

前期到達度試験の追試験期間は、9月1日休~6日 火を予定しています。

<後期ガイダンス>

9月16日金

※対面での実施を予定しています。詳細については

決定次第、KAIT Walkerにて案内する予定です。

<後期授業開始日>

9月20日(火)

※新型コロナウイルス感染症の状況により授業形 態及び授業等に日程を変更する場合があります。 詳しいスケジュールは、本学ホームページおよび KAIT Walkerを必ずご確認いただきますようお願 いいたします。

教職教育センター

令和5年度採用公立学校教員採用試験(令 和4年度実施)の受験に向けて

○6月20日~7月4日:直前対策講座

7月の1次試験合格に向けて、教職教養を中心とした 講義と、受験時の留意点について説明し、本番に備 えます。

○7月中: 各都道府県で採用試験の実施→1次合格 発表(神奈川は7月29日)

○7月30日・31日(2日間):2次試験対策①

○8月6日·7日(2日間):2次試験対策②

1次試験合格者に対して、2次試験の受験に向けて、 模擬授業や面接試験等人物試験の対策を重点的に 実施します。

○7月1日:教員採用試験対策スターティングガイダ ンス(全学年対象)

令和5年度実施の受験に向けた対策をスタートしま す。

○8月31日~9月9日(8日間): 夏期集中講座の実施 (講師:東京アカデミーのスタッフ)

大手予備校の講師から受験に必要な基礎を徹底的 に学び、本格的な受験対策を開始します。

○9月9日午後: 神奈川県の本年度実施問題による 模試

神奈川県が本年度実施した問題に挑戦し、現段階に おける各自の実力測定と今後の目標を定めるため の参考資料にします。

○10月3日~12月16日(約2か月半間):「後期対策 講座」の実施

前期同様に添削指導をメインとした受験対策(一般 教養・教職教養・専門教養・論作文等)をします。

学生課

「父母説明会・個別相談会」開催について

例年9月に本学で開催している「父母説明会・個 別相談会 は、新型コロナウイルス感染症の収束が 見通せないため、2022年度においては、全体の説 明をオンライン (オンデマンド) 形式にて配信致しま す。(5/30より配信しております。本学ホームページ 「保護者の皆様」「父母 説明会(オンデマンド) のご 案内」よりご視聴ください。)また、「個別相談」につき ましては、実施方法 (実施の可否を含め) を検討して

おります。詳細につきましては、大学ホームページ等 に掲載いたします。ご確認ください。

なお、この「父母説明会・個別相談会」とは別に、個別 のご相談をご希望される方は、学生課までご連絡下 さい。

<学生課>gakusei@kait.jp / 046-241-9394

キャリア就職課

6月以降の就職活動支援

【2023年卒生(学部4年生、院2年生)対象】 ※看護学科、臨床工学科を除く

- ・6月のオンライン合同企業説明会:6/14(火)~17(金) IT系 24社
- ・個別企業説明会(対面式・オンライン形式):実施日 程は本学HP [KAIT Career |参照
- ・就活フォローアップ講座:6/25(出、7/16(土)

【2024年卒生(学部3年生、院1年生)対象】

・前期就活セミナー(第1回~第6回) オンデマンド配信

前期就活セミナー未視聴者向けにオンデマンド配 信中。大学HP「KAIT Career」からアクセスできます ので、未視聴者は必ず視聴をしてください。

・インターンシップ参加促進期間

夏休み期間に集中してインターンシップに参加す ることで単位修得ができます。就職活動の準備とし て非常に有効です。お問合せはキャリア就職課内イ ンターンシップ推進室窓口(is@kait.jp)まで。

【その他の就職支援イベント】

- ·看護学科対象合同病院説明会:6/11(土) 22病院参
- ・女性のライフステージ講座(オンライン):6/7(※)
- ・就職力アップ講座:6/18(土)(対面) 1限~5限
- ・公務員対策ガイダンス:7/6(水)、7(木) 5限
- ・ふらっと相談会(ハローワーク厚木共同開催) (対面):6/12(水)、7/7(木)、7/21(木)

「ITを活用した教育研究シンポジウム2021」を開催

「ITを活用した教育研究シンポジウム2021」が2022年3月10日にオンライン配信で開催されました。小宮一三学長の開会挨拶に続き、アドビ株式会社の仲尾毅氏による基調講演「アドビのAI活用で実現できる次世代エンジニアを育てる教育について」が学内外からの参加者を交えておこなわれました。

一般講演は、事前に投稿された32件の発表動画を事務局で編集統合した上で YouTube上にて限定公開されました。一般講演に対する質疑応答は、ビジネスチャットツール「Slack」上で活発な議論がおこなわれました。発表論文は講演論文集としてまとめられ、参加者をはじめ関係各所に配布されました。

今回で16回の開催となる「ITを活用した教育研究シンボジウム」では、本学で取り組んでいるe-Learning 等のITを活用した教育法の研究や実践について報告や議論をおこなう機会となっており、前回に引き続きオンライン授業への取り組みも紹介されました。最後に本シンボジウム開催にあたりご協力いただいた方々に厚くお礼申し上げます。

(文責・情報教育研究センター助教 藤井みゆき、画像・阿久澤慧)



株式会社エッチ・ケー・エスと共創活動の合意書を締結

株式会社エッチ・ケー・エス(以下㈱HKS)と本学との、技術連携協力に関する共創活動の合意書締結式が3月18日に執り行われました。

2019年より自動車システム開発工学科 山門教授を中心として準備が進められ、2021年より共同研究が開始していましたが、研究内容を発展させるために「未来に向けた楽しむためのクルマ創り~走る歓びを追い求める~」をテーマに、以下の内容で共創活動を開始することになりました。

- (1)サスペンション研究
- (2)電動化技術
- (3) 自動運転技術
- (4)構築した理論を検証するための実証実験
- (5)(㈱HKSと神奈川工科大学研究員又は関係者との定期的な意見交換、勉強会調印式では、本学機械工学科の卒業生でもある㈱HKSの水口大輔社長と小宮一三学長が協定書への署名を行い、今後の取り組みについての意見が交わされました。水口社長は、「サスペンションの評価についての共同研究からスタートさせていただきましたが、これからも自動車に関するさまざまな相談をさせていただき、時代の変革に合わせたカスタムパーツを提供しながら未来に向けた楽しむためのクルマ創りを実現して行きます」と、今後の抱負を述べられました。小宮学長は、「大学としては、今後も次世代を担う若い技術者を育てていきたいと考えています。この協定を機会に

連携をさらに強くしながら、お互いの理想に向けて進んでいければと思っております」と述べました。



AI (深層学習) が走らせる自動運転ラジコンカーレースを開催

3月25日、学内で「AI (深層学習) が走らせる自動運転ラジコンカーレース」が開催されました。走行に必要な車両・人工知能・運動制御を学生が自ら製作し、情報工学科・情報ネットワーク・コミュニケーション学科・自動車システム開発工学科から7チームが参加。学部学科を越えた熱い戦いが実現しました。

優勝した"チームM-MC"の自動車システム開発工学科清田拓実さんは、「優勝できてとても嬉しいです。本当はベストラップ賞も取りたかったので、少し残念です。車のスピードをあげようとすると、車に学習させる仕方も変わっていくので大変でした。学科での学びを活かして、車の足回りも加工したりと、7人で試行錯誤しながら

頑張ってきました。次回のレースも参加して、安定したレースをしてまた優勝したいです」と感想と今後の抱負を語ってくれました。開催を呼びかけた自動車システム開発工学科脇田敏裕教授は、「今後は定期的なレースの開催や、全学科の学生が受講できる講義の設置などを計画中です。さらなる高速走行、複数台走行(追い越しなど)や人間とAIの協調走行など、徐々にステップアップしていきたいです。また、ラジコンカーだけでなく、ゴーカートなどより大きな車両での自動運転レースも実現できたらと思います」と語りました。



